



第34号
令和1年
2019

会報

にしきうら



令和1年度 同窓会総会(令和1年9月21日 於 須崎市民文化会館)



2019柳川ソーラーボート大会(令和1年8月3、4日 於 福岡県柳川市)

高知県立須崎工業高等学校同窓会

目 次

ご 挨拶	同窓会 会長 林 和夫	1
ご 挨拶	学校長 梅原 俊男	1
学校の近況報告	教 頭 中野 達也	2
関東支部だより	平成版「奥の細道」を歩く	38M大崎 鼎 4
中京支部だより		46C竹村 隆 5
関西支部だより	支部長35S 増田 浩	6
高知支部だより	支部長40T 加納 弘史	7
須崎支部だより	支部長54M 坂本 定浩	8
窪川支部だより	支部長50M 西内 一隆	9
幡多支部だより	支部長43M 宮本 博行	9
特別寄稿	今こそ歴史に学ぼう	38M大崎 鼎 9
事務局だより	01年度総会報告他	事務局長47C 梅原 正博 11
終身会費納入者氏名	平成28年9月～令和01年8月末まで	12～13
決算報告	平成28年度～30年度決算報告 令和01年度予算(案)	14～17
令和01年度～03年度役員名簿		18
会員諸兄姉にお願い		19～22
終身会費納入のお願い		23
にしきうらの配布終了について		24
新校舎とソーラーボート記事		25



ご挨拶

各地の同窓会員の皆さん、それぞれの立場でご活躍され、ご健勝にてお過ごしのこととご推察申し上げます。

さて、創立七十有余年の歴史と伝統を誇る母校も、厳しい教育環境状況等の中で高知県教育委員会の「県立学校再編振興計画」と指導のもと須崎高等学校との統合が実現し、平成三十一年度より「須崎総合高等学校」として再出発をしました。高吾地域の拠点校としての教育の充実、地域を支える人材の育成、生徒が切磋琢磨できる環境づくりを、「目指す学校の姿」とし教育活動を推進して行く事を柱としております。

同窓会も両校の今までの活動を総括しながら合併し、「新しい同窓会」を立ち上げなければなりません。「新高校」の卒業生はこれからでありますので、現在の両校同窓会が連携を取りながら活動を継続し、協議をしながら「新しい同窓会」にどのように繋いでいくかを模索しているところであります。

本校同窓会は「会員の親和と母校の隆盛を図る」を目的とし活動しており、この精神を受け継ぎ発展していく同窓会を目指して欲しいと思います。再出発をした母校の教育活動等には全面的に協力し、母校のさらなる発展を期待していくことが同窓会の願

挨拶

昭和四十一年化学工業科卒
高知県立須崎工業高等学校 同窓会

会長 林 和夫

いと成るかと思えます。

最後になりましたが、「須崎総合高校」の発展と各地の同窓会員の皆様方がご健勝であられますことを祈念し挨拶いたします。



平成30年度卒業式(平成31年 3月1日)須崎市立市民文化会館にて

あいさつ



高知県立須崎総合高等学校
校長 梅原俊男

同窓生の皆様方におかれましては、ますますご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。日頃より本校の教育活動に何かとご支援、ご協力をいただいておりますこと心よりお礼申し上げます。

学校におきましては、三月一日に須崎市立市民文化会館にて須崎工業高校の校名として最後の卒業証書授与式が、林和夫同窓会長様をはじめ、多くの同窓生、ご来賓と保護者の皆様方のご参加をいただき盛大に執り行われ、九十二名の卒業生を送り出すことができました。卒業生の進路状況につきましては、進学者十五名(大学・短大等四名、専門学校等十一名)、就職者七十三名(県内三十二名、県外四十一名)、その他四名となっております。進まれた先で、同窓生の一員として活躍されることを願っております。

平成二十六年に策定されました「県立学校再編振興計画」により、高知県立須崎工業高等学校と高知県立須崎高等学校を統合し、適正規模を維持した学校を設け、高吾地域の活力ある拠点校として、須崎工業高校の敷地に統合後の学校を設置することが決定されました。このことにより、須崎工業高校は、今までの機械科、造船科、電気情報科、ユニバーサ

ルデザイン科の四科体制から、機械系学科（機械専攻・造船専攻）、電気情報系学科（電気専攻・電子情報専攻）、システム工学系学科（機械制御専攻・住環境専攻）の三科体制に再編され、平成三十一年の開校に向け準備が進められてまいりました。

平成三十一年四月八日、真新しい体育館において、伊藤博明高知県教育長の開校宣言・校旗授与に続き、尾崎正直高知県知事に祝辞をいただき、高知県立須崎総合高等学校として開校いたしました。午後には入学式を挙行し、三期生百七十名が入学、二年生百七十二名、三年生百四十六名、合計四百八十八名の船出となりました。この生徒数は、県立高校では十番目の規模です。須崎工業高校七十八年の歴史と須崎高校七十二年の歴史を継承するとともに、両校の特色を融合した新たな歴史が、和佐田の丘で始まりました。「人」を思い、人とつながり、人に役立つ「人材」の育成を教育目標に掲げ、高吾地域の拠点校を目指した教育を推進していきます。

工業科は、「ものづくりへの情熱が新しい時代を築く」をキーワードに、工業に関する知識、技術、技能を身につけ、信頼と尊敬に価する工業技術者の育成を目指します。

普通科は、「自分の意志で積極的に学び挑戦する」をキーワードに、自ら学ぶ態度を育て、確かな学力の向上と将来を切り開く力の育成を目指します。

定時制は、「自分にしかない良さに気づける学びの場」をキーワードに、社会人として必要な基礎学力・態度を身につけ、社会に貢献できる人材を目指します。また、定時制普通科でありながら、工業科の科目が選択できるのも大きな魅力です。

工業科と普通科が一緒になるとい、高知県下で

初めての統合高校として、工業科と普通科の魅力を活かした新たな文化を築き、一日一日の歴史を積み重ね、高吾地域として須崎市唯一の公立高校として、地域から信頼され、地域の子どもたちから目標としてもらえる学校づくりに邁進していかねばと考えています。

校舎のある和佐田の丘からは幡蛇森を仰ぎ見ることができ、富士ヶ浜や一万トン岸壁、周辺の街並みなど一望できる景色には教育環境の良さを感じることができ、教室やロビー等は壁を少なくし、吹抜けやガラスを多用した開放感あふれるつくりと色彩感あふれる配色で、全く新しい発想のデザインとなっています。また、キャリアセンター、吹抜けの図書館、グレートストリートなど今までの高校にはなかった施設ともなっております。校舎の基本構成としては、北舎、中央館、南舎の三つの棟からできています。体育館は新築され、バスケットボールの公式試合用コートが二面取れるほどの広さとなっております。旧体育館は一階に食堂、武道場、二階はアリーナとして改築され、名称も食堂棟と変更されました。実際には体育館を二つもつ学校ということになりました。本年度には、北舎と南舎をつなぐ渡りローカーナ舎と総合実習棟や体育館をつなぐ渡りローカーの工事が計画されています。また、五カ年計画で通学路の整備も予定されています。是非、同窓生の皆さまにも学校の見学においていただきたいものです。

最後になりますが、統合に際しまして、ご理解とご支援を賜りましたこと、お礼申し上げますとともに、須崎総合高校に対しても須崎工業高校と同様に、ご支援を賜れますようお願い申し上げます。同窓生の皆さまますますご健勝とご多幸をお祈り申

学校の近況報告



教頭 中野達也

須崎工業高等学校同窓生の皆様方におかれましては各方面でご活躍並びにご健勝のことと存じます。また、日頃は母校の教育活動へのご理解とご協力を賜り、心より厚く感謝申し上げます。

私は、昭和六十三年四月から須崎工業高等学校機械科で任用となり五年間、二度目は平成十六年四月から機械科二年間、平成十八年四月からユニバーサルデザイン科十年間、引き続き平成二十八年四月から須崎工業高等学校教頭として三年間、平成三十一年四月から須崎総合高等学校教頭として勤務しております。教員生活の三分の二を須崎工業高等学校で過ごしており大変思い出深く、公私ともに成長させていただいた感慨深い学校です。この間、同窓生の皆様にはたくさんのお出でをありがとうございました。本当にありがとうございます。

県立高等学校再編振興計画（前期）にともない、平成二十六年から五年計画で再編・統合が進んで参りました。七十八年の歴史と伝統のある須崎工業高等学校と七十二年の歴史と伝統のある須崎高等学校両校が統合し、平成三十一年四月八日、高知県立須崎総合高等学校として開校いたしました。



50.M 片岡武志氏 継承式にて

須崎工業高等学校は昭和十六年四月に須崎市出身の元郵政大臣、寺尾豊氏のご尽力により高知県立須崎工業学校創立、昭和二十三年四月学制改革によって高知県立須崎工業高等学校となりました。学校設立当初は機械科を有し、昭和十九年四月造船科、昭和二十七年四月電気通信科、昭和三十四年四月化学工業科、昭和三十八年四月電気科を増設していきました。昭和四十二年高知県教育委員会規則の変更により「機械科、造船科、化学工業科、電気科」と改め、昭和四十七年四月、西札町から和佐田の丘へ移転してまいりました。平成三年十一月創立五十周年式典挙行、平成十一年七月ドラゴンカヌー八艇を須崎市へ贈呈し、県内外から多くのチームが参加する須崎祭りの一大イベント「須崎市ドラゴンカヌー大会」が行われるようになりました。平成十四年四月

電気科が電気情報科に改められ、平成十六年三月化学工業科が廃科、平成十八年四月ユニバーサルデザイン科が新設され、全国で唯一造船科、ユニバーサルデザイン科の二科が存在する学校となりました。平成二十九年四月ユニバーサルデザイン科が募集停止となり機械科、造船科、電気情報科が学科改編に伴い機械系学科「機械専攻・造船専攻」、電気情報系学科「電気専攻・電子情報専攻」、システム工学系学科「機械制御専攻・住環境専攻」へと再編が進みました。平成三十一年一月にはこれまで刻まれてきた工業高校の技術・技能を継承する目的で継承式を行い、昭和五十年三月機械科卒業、片岡武志氏による特別講演「工業技術者のあるべき姿」と題して今後生徒が工業技術を継承していくにふさわしい貴重なお話を頂きました。また、同日、ユニバーサルデザイン科の閉科式を行い、平成二十一年三月ユニバーサルデザイン科卒業、山田梓（旧姓 山脇）氏による特別講演「ユニバーサルデザインから繋ぐ」と題して、これまでの振り返りや就労するうえで自ら考え目標を持ち行動することが大切であることを分かりやすく伝えて頂きました。

近年の受賞・活動歴につきましては、柳川ソーラーポット大会七連覇（造船部）、キャリア教育における「文部科学大臣表彰」受賞（平成二十六年一月）、社会貢献青少年表彰受賞（内閣府特命担当大臣賞）（平成二十六年十一月）、防災未来賞「ぼうさい甲子園」優秀賞受賞（平成二十七年一月）、高知県高等学校生徒研究発表会「最優秀賞」受賞（ユニバーサルデザイン科）（平成二十八年十一月）、産業教育生徒研究発表会「入交太兵衛記念賞」「高知県教育委員会 教育長賞」受賞（平成二十九年一月）、文部科学大臣表

彰（学校安全）受賞（平成二十九年十一月）、第二十二回防災まちづくり大賞「日本防火・防災協会長賞」受賞（平成三十年三月）等、生徒並びに教職員が活躍した成果が大きく評価されています。これからは同窓生の方々から受け継いだ「ものづくり」から生まれる創意工夫を活かし、皆様のご期待に沿えるよう活躍していきたいと考えています。

部活動におきましては、造船部が前述のとおり柳川ソーラーポット大会で七年連続優勝（近年は一般・学生を含めて総合優勝）、相撲部が連年、四国大会へ出場、ソフトボール部、バスケットボール部が高知県大会上位入賞と奮起しており、こちらも歴史と伝統を引き継ぎ精進いたしております。今後とも末永く応援よろしく願います。

須崎総合高等学校は高吾地域の進学、産業教育



21.U.D 山田 梓氏 閉科式にて

部活動の拠点校として大きな役割を担っており、「人を思い、人とつながり、人に役立つ」人材の育成を教育目標としています。特に工業科では学習活動と体験活動を通して確かな学力と勤労観・職業観を養い、専門的知識・技術を身に付ける職業教育の充実及び就職支援の強化を図り、生徒の希望進路を実現していきます。また、防災活動や地域おこし活動を通して地域を支える人材を育成することを目指しますので、「ご指導、ご鞭撻よろしくお願いたします。」

最後になりますが、統合に至るまでに同窓会関係者の方々には過大なるご理解と、多大なるご協力を賜りましたこと、改めて感謝申し上げますとともに、同窓会の皆様方のお一層のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、ご報告とさせていただきます。

支部便り

関東支部だより

平成版「奥の細道」を歩く

昭和三十八年機械科卒

大崎 鼎

「月日は百代の過客にして、行きかふ年もまた旅人なり……」。かの有名な「おくのほそ道」の書き出しである。芭蕉のこの名文に誘われて、吾もまた同じ道をたどってみんと歩き始めたのは二十七年五月十六日。東京の千住大橋を振り出しに岐阜県

大垣市を目指してスタート。どうせ三日もしないうちに「やめた！」となるに決まっていると誰にも告げず一人で歩き始めた。ところが、歩き始めるとやめるどころか、一週間もじっとしているとむずむずして落ち着かなくなる。そうしてあれよあれよと言っているうちに、今年八月三日、終点大垣に着いたこの間、百十日。自宅の埼玉から近距離は日帰り。遠方になると二泊三日、長くて四泊五日の行程となる。つまり連続して歩き続けたわけではない。行ったり来たりを繰り返して、全行程を歩き通したのである。これには新幹線が非常に役に立った。これが無ければ東北などへは行くだけでも半日から一日はかかる。つまり往復のロスが多くなり、この日数ではとても達成できなかったらう。

およそ三百年前、松尾芭蕉と弟子の曾良は江戸を出発。日光・白河・福島・仙台・松島・石巻・平泉・鳴子・天童・新庄・最上川・月山・酒田・象潟・村上・新潟・親不知・富山・金沢・山中温泉・永平寺・福井・敦賀・関ヶ原・大垣へと旅した。距離にして約六百里、ざっと二千四百キロ。このコースをできるだけ忠実に歩くことが、今回の旅の目的だった。

しかし考えるまでもなく、そんな昔の道が「そのまま」残っているはずがない。全行程を歩いた結果、五%くらいは原道が残っているかもしれないと思つた。例えば、トンネルの無い昔、山は峠を越えて行くしかなかった。その山越えの道があとこちに残る。奥州上街道・出羽街道・北国街道などには峠越えの山道があとこちに今も残る。しかし今では人が通ることとは滅多にないようで、ずいぶん荒れてきている。この先いつまで歩ける道として残るか気になる。

こうした山道以外の旧街道はほとんどが国道であるが、バイパス等の新国道ができ多くは県道に格下げになっている。これらの道は片側一車線で歩道の無い所が多い。石巻では東北大地震の復旧の為、山から碎石を運ぶダンプ街道を歩いたが、次から次へとウナリをあげて行きかうトラックにしばしば恐怖を感じた。また、親不知では「洞門」という半トンネル十三本の延六キロあまりを歩いた。国道事務所や地元の見光協会からは「歩道もないし、大型車とすれ違ふ時、逃げ場もなく非常に危険だからやめろ」と忠告された。しかし、ここでやめたら全行程を歩き通したことになる。そこで、赤色灯の点滅するヘッドランプをつけ、交通整理員が振りまわす長い棒型の赤色灯も持ち、トラックに警告しながら歩いた。

また旅の途中、多くの「クマ出没注意！」の看板を見かけた。ひどい所では民家の庭先にも何ヶ所か立ててあった。それだけクマが人家の近くまで出てきているようだ。宮城県では「できるだけ賑やかにして来てください」と言われて、鈴はもちろんだ（ホイッスル）さらに携帯ラジオも持ち、山中ではそれらをガンガン鳴らしながら騒がしくして歩いた。それでも、道の真ん中に黒々としたウンコを見た時にはぞっとした。ウンコと言えば、これが問題だ。道中トイレは基本的に無い。よって、朝のトイレを三十分くらい頑張っても済まずようにつとめた。それでも途中で催すことがある。国道等ではコンビニのトイレに何度も助けられた。おかげで「野糞」をすることはなかったが、タチシヨンは最初戸惑いながらも途中からは平気でできるようになった。汚れた話といえ、約10kgのリュックを背負っ

て歩いているので、夏場には汗が滝のように流れ落ちメガネをかけていられない。タオルをハンカチ代わりに使うが、途中で絞ると汗がポタポタ落ちる。ペットボトルの水を5、6本は飲むので、下着を通してズボンも汗で変色する始末。冬になると東北や裏日本は雪で歩けない。また雨が降る日も歩くことはしなかった。

このようにして一日に二十、三十キロ歩いた。足元には相当気を付けていたが、何度も血爪になった。両方の親指の爪は三回くらい生え代わった。

この旅を終えて「昔の人は偉かったなあ」と感服したことだ。一日に十里、約四十キロも歩いている。老若男女を問わず、衣食住も粗末な時代にひたすら歩いたわけだ。

ところで、事前に多くの解説本を読み県や市・町から資料をもらい、道筋を調査した上で出かけたのだが、困ったことには現在の街中では昔の道がどうもよく分からないことが多かった。それでもおおよそ八割以上は間違いない「ルート」を辿れたと思っ

ている。なお、一言付け加えれば「観光」はほとんどしなかった。ひたすら、点と点を結ぶ線をたどり歩くだけの旅であった。

そこまでして、なんでそんな旅をするんだとよく聞かれた。しかしこれと言って特別なわけではない。しいて言えば放浪・漂泊の詩人に昔から魅かれるところがあつたからだ。杜甫・能因・西行・芭蕉・牧水・山頭火など。自分も一度はふらふらとそんな旅をしてみたいとずっとあこがれてきた。中でも奥の細道のルートははつきりしているし、芭蕉の俳句も好きだ。自分で俳句を作るわけでもないし芭蕉の研究者でもない。しかし、彼の俳句はともすつきりとしている。句を口ずさむときれいな景色が目の前にくつきりと浮かぶ。そう、私は芭蕉のファンなのである。

最後に「奥の細道」で詠まれたものではないが好きな一句を。芭蕉の真骨頂ここにありと思う。

旅に病んで夢は枯れ野をかけ廻る



奥の細道むすびの池にて 大崎鼎氏

中京支部だより

昭和四十六年化学工業科卒

竹村 隆

須工同窓生の皆様お元気でお過ごしのことと思います。令和の時代も暮開けし、三月春に須工最後の卒業生が旅立ちました。中京支部の近況報告ですが、情報連絡できる卒業生一六〇名と内メール配信の卒業生（三十名）で、住所移動者等四十名程います。

今回、高橋支部長に代わり、私、竹村隆（幹事長、S四十六年化学工業科卒（葉山東中卒）より毎年の親睦会兼総会の状況を報告させていただきます。

中京支部は、トヨタ、デンソー、東海理化等自動車企業が多く、毎年母校卒業生が多数就職され、又人事異動での移動不明者が多く確認に苦慮しているのも事実です。

同郷の役員、出身中学等などの幅広い情報支援をお願いし、卒業生の親睦拡大を図りたい。

今後、卒業生には、住所変更の連絡方法はメール等を含め連絡できれば幸いです。

さて、高橋支部長のもと、幹事長として、中京支部同窓会（愛知・三重・静岡）の皆さんに支部総会の案内や年賀状の発行を行っています。故郷を離れて四十八年、実家は新莊川上流の津野町（旧葉山村）にあります。三年間、自転車とオートバイで通学していました。

当時、ニホンカワウンが川で泳いでいたのを見掛けましたが、自然一杯の環境で育つたことを誇りに思っています。同窓会はそんな故郷を語る楽しい場であり、皆さまと共に話に花を咲かせたいです。中

京支部の親睦会兼総会の開催日は、十一月の第三土曜日（十六日）と決まっております。また、須崎高校卒業の参加者も昨年一名女性の方も増えています。遠くは静岡県から参加して頂き和やかに語り合っています。皆さまのご参加をお待ちしています。

皆様のご健康、ご活躍をお祈りし、中京支部の状況報告とさせていただきます。

最後に中京支部は、親睦会の開催のみならず、役員一丸となり、今までの伝統と発展を継続し運営の効率化（会員間の、メールでの配信拡充）、同郷の先輩の支援等、企業間との情報共有も行い、若い会員が参加できる環境と育成にも努力していきたいと思っております。

左記に、高橋支部長、竹村隆の携帯とアドレスを記載しましたので、連絡変更等ありましたら気軽に連絡をお願いします。

<中京支部連絡先>

高橋 洋太郎 携帯：080-2666-5559
e-mail: tkhs-ytr-nrk@bj.wakwak.com

竹村 隆 携帯：080-2623-9966
e-mail: tobunda1118@yahoo.co.jp



2018年度親睦会兼総会 写真 アサヒスーパードライ名古屋

関西支部だより

昭和三十五年造船科卒

支部長 増田 浩

須工同窓生の皆様には、それぞれの地でお元氣にお過ごしのことと存じます。早速ですが、"にしよう"第三十四号の発行に当たり当関西支部の近況をご報告させていただきます。

今年は記念すべき令和時代へのスタートの年となり、母校では三月に須工最終卒業生が巣立ち、四月には須崎高校と統合し須崎総合高校として新たな歩みが始まりました。

当同窓会でも、時期を同じくして四月より大阪支部と京滋支部が統合し、大阪・兵庫・奈良・和歌山・京都・滋賀各府県に在住する五一〇名の会員からなる関西支部として、更なる"継続と発展"を目指すことになり、七月二十日の役員会で下記の重点施策を決定しました。

(一) 世代間公平のため、今春の最終卒業生の平均的な同窓生活（六十三年間）を見据えた運営を目指します。

・今春の須工最終卒業生までで、終身会費収入がなくなるため長期の財政管理に努めます。

・他支部交流など、遠隔地への派遣費用の負担は原則行わずメール等に切り替えます。

・引き続き、支部役員は完全ボランティアを大前提にして諸活動の充実を図って参ります。

・須崎高校同窓生とは、母校統合の友として支部の活性化に繋がる親しい交流を続けます。

(2) 若者アプローチの継続強化

・「継続と発展」に欠かせない要素として、若者アプローチには更なる知恵を絞って参ります。

・若手会員の発掘と、支部運営の基盤となる役員への積極的登用を継続して参ります。

最後に、歴史ある須崎工業高等学校同窓会の「継続と発展」を目指し、絶え間ない世代間リレーを通じてこの先、約六十三余年の実り多い同窓会となるよう皆で盛り上げて行きますよう!

関西地区(大阪・兵庫・奈良・和歌山・京都・滋賀)在住同窓生の皆さん

関西支部活動への参加を心よりお待ちしております。



関西支部フラッグ

関西支部連絡先(事務局:広瀬直記)
〒559-0033 大阪市住之江区南港中4-7-24-1311
電話:090-2283-2893 Fax:06-6613-0305
e-mail:hiro-net@jasmine.ocn.ne.jp



H31/2019.1.26 京滋・大阪支部統合同窓会

高知支部だより

昭和四十年電気通信科卒

支部長 加納弘史

同窓会のみなさん、今年の夏は猛暑続きですが、お元気でしょうか?

今まで小冊子で発行してきた「にしきうら」ですが、次回発行される会報はホームページでご覧いただける計画と聞いています。

その様なことから、入学当身を少し振り返ってみたいと思います。(私事になりますが、昭和三十七年四月・電気通信科に入学しました。当時の校舎は西糺町にあった木造二階建て(化学科だけがコンクリートの立派な建物)でした。また、今で云う体育館も木造の「講堂」と云われていました。

クラスは二つに分かれ、それぞれ担任の先生があり、中学校との違いや、電気理論など専門科目の授業に高校生としての成長を感じていました。窪川から須崎まで汽車通学した事など本当に懐かしい思いがしています。

就職も電気通信の職場で、後に無線技術士の資格取得によって工業高校の教員免許も頂く事になり、電気通信技術やパソコン、デジタル技術の驚異的な発展と共に、時代の変化に驚いています。

間も無く、現在の一〇〇倍の通信速度の「5Gの時代」になり、いろいろな物がネットに繋がると言われています。輸入品への課税がヒートアップしている米中の経済戦争は、この覇権をめぐる争いです。日本も、もの凄い世の中になり、自動運転の車など一層便利な生活になるでしょう。

そんな時代に生きている事の幸せを感じて、長生きはするものだと思います。

さて、高知支部の活動ですが、毎年五月に「総会&懇親会」と「ゴルフの親睦会」を開いています。若い青年部のみなさんに、企画や案内状の発送などを担当して頂いていますので、大変助かっています。

昨年の「総会&懇親会」は、須崎高校同窓会との合併があるかもしれないという思いもあって、先輩のご紹介で須高の卒業生にご案内をさせて頂き、六名のご参加があり、楽しく交流をさせて頂きました。しかしながら、本部では、須崎工業、須崎高校、総合高校と三同窓会が併存する事になりましたので、一年限りの交流となりました。

今年は久し振りに高知会館で開催し、五十名近くの方々にご参加を頂きました。日程がちょうど、県体育大会と重なり、母校からは正木副校長先生にご挨拶を頂き、学校の様子などを伝えて頂きました。懇親会には、県体業務の合間を縫って梅原校長先生にもご参加頂きました。

「ゴルフの親睦会」も毎年、二十、三十名の方々のご参加があり、楽しく交流をして頂いています。

また、東京や大阪の支部総会にはご案内を頂き、代表の者が参加し、交流をさせて頂いています。今後も、このような活動を続けて行きたいと役員の方々と話し合っています。

最後になりますが、工業高校の卒業生が居なくなり淋しいと思いますが、専門科目を勉強する楽しさと、他教科の同窓生との絆も豊かなものにして共に成長していく事を期待しています。

須崎支部だより

昭和五十四年機械科卒

支部長 坂本定浩

同窓会会員の皆様におかれましては各方面でご活躍をされ、益々ご清祥の事とお喜び申し上げます。

寂しい事ですが、この春、須崎工業高等学校という校名が無くなり、須崎高等学校との統合により須崎総合高等学校という校名でスタートと成りました。

統合に反対をしていた立場ではあったものの、いざ校舎がほぼ完成し、二倍の数に成った生徒を目的の当たりにすると昨年までとの活気の違いを感じます。クラブ活動やチームを主体とする活動の場が広がる事を期待しております。

また、新築・増築された校舎・体育館は私たちが通っていたころ（四十年前）とは到底比べ物にならない豪華なものと成っております。皆様もぜひ一度内覧させて頂くと思います。

さて、地元須崎市では、今年も須崎工業高校造船科寄贈により始まったドラゴンカヌー大会や、高校生によるドラゴン甲子園が開催されております。私もドラゴンカヌー大会に出場し、一部で八位の成績でした。近年参加チームが減少しているようですが、これからもドラゴンカヌー大会が発展していくことを願っております。

また今年は、三年に一度の同窓会総会の年に当たります。須崎支部としましては、年間を通じ支部総会・親睦会を行っておらずこの総会に力を入れています。本部事務局を中心とし、須崎支部でも役員会を開き準備を進めているところです。九月二十一日

(土)に須崎市立文化会館で開催される総会当日はたくさんの方々の同窓会会員の方々とお会い出来ることを楽しみにしております。

そして、これからも他地区で開催される支部総会・親睦会に案内があれば出来るだけ多くの人員で参加させて頂きたいと思っております。

最後になりましたが、皆様方の益々のご活躍、ご健勝をご祈念いたします。



須崎支部役員会の様子

窪川支部だより

昭和五十年機械科卒

支部長 西内 一隆

皆様、いかがお過ごしでしょうか。窪川支部長の西内です。

私が、支部長として関わらせていただいたのは、今から六年前になります。

須崎工業高校も時代の変化とともに、平成三十一年四月から須崎高等学校と合併し須崎総合高等学校として発足しました。

須崎工業高校同窓会の会長や理事を引き受けて下さっている多くの皆さんのお力をお借りしながら支部長として六年たちました。

そうした中で感じるのは人の「縁」ということです。

実際に、須崎工業高校同窓会に携わるようになってから本当に多くの方々に出会わせていただいています。

この須崎工業高校同窓会を中心とした「縁」をさらにできるだけ多くの皆さんにつないでいくことができたらと考えながら運営をしていきたいと思っています。

須崎工業高校に学び卒業した喜びを、ひとりでも多くの同窓生と分かち合える「絆」は世代を超えていつまでも……

それが須崎工業高校同窓会窪川支部の願いです。

最後になりましたが、皆様方のご健勝とご活躍を祈念しご挨拶とさせていただきます。

幡多支部だより

昭和四十二年機械科卒

支部長 宮本 博行

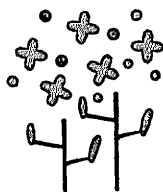
幡多支部は十分な同窓会活動が出来ていません。

支部総会は年に一回は行っていますが、役員と数名程度の会員しか集められていません。

いつも参加のメンバーは年々高齢化し、参加者が減っています。また、役員との年齢差がある若い会員の情報が入らない状況です。幡多地区に宿毛工業高校が出来て以来、四万十市、宿毛市、土佐清水市などの卒業生が減って、最近の卒業生は黒潮町がほとんどですが、その役員が欠員のままになっていることもその原因の一つと言えます。

伝統あるわが母校も須崎高校との統合になりました。これからの同窓会が須崎総合高校にとってどういう役割を果たせるか考えて行かなければなりません。

幡多支部も役員体制を再構築して、面積は広い地域ですが、それをカバーするために各市町村に連絡をとれる体制をつくっていかねばならないと思っています。



特別寄稿

今こそ歴史に学ぼう

昭和三十八年機械科卒

大崎 鼎

「民主主義の死に方」(ハーバード大学教授著、日本語版・新潮社)という本が最近読まれている。著者は世界で民主主義が崩壊しつつあるという。世界を驚かせたトランプ大統領の誕生。その選出過程では民主主義的な手法が十分生かされなかったため、こんな異例の事態を招いたという。その詳細はさておき、ここではトランプ大統領の場当たり的な政策や主張について考えてみたい。第一にますますエスカレートする米中貿易戦争。安価な中国製品の流入は米国の製造業を衰退させると高関税をかける。対する中国も報復関税を発動。この勝者なき報復合戦は両国の経済のみならず、世界経済をも道連れにして深刻な景気後退への道を進み、リーマンショック以来の不景気の再来も懸念されはじめている。もちろん日本経済にも徐々に悪影響が及び、企業業績は落ち込み始めている。自分が蒔いた種にも関わらず、大統領は悪いのは己の政策ではなくFRBの金利政策だと息巻き、本来中立的であるべき中央銀行の金融政策に堂々と圧力をかける。

「大統領はまるで、小学五・六年生のようにふるまい、理解力もその程度しかない。やっつけられない」と前国防長官はあきれて辞任。世界一の軍事大國米国の最重要閣僚である国防長官ですら愛想をつかし

ている。こうしてイエスマンの集団が政権内部に残っていく。このような手法が民主主義の「お手本国」でまかり通っていることが問題だ。今の米国がそうだとはいわぬが、歴史上の独裁国家ではこのような手法が一般的に取られてきた。

ヨーロッパにおいても極右勢力の台頭が深刻な問題になっている。直近のイタリア政局の混乱。フランス、オランダ、ドイツ等々においてもその動きが顕著である。

ところで、アジア・アフリカおよび中南米諸国ではまだまだ民主主義が十分機能していない国が多い。いわゆるロシアや中国などの共産主義国はこの問題を考える対象には入らない。

現代のこのような世界情勢はかつての第二次世界大戦前の世界の混乱を彷彿させる。世界の各地で勢いを増しているポピュリズム。自国第一主義を掲げる大衆迎合主義は国際協調路線とは対極にある。ヨーロッパにおいては移民の排斥運動へと展開してい



る。米国においても流入する中南米からの難民対策として「国境に壁を作る」などという大統領の馬鹿げた主張がなされている。挙句の果てには多人種こそがアメリカの原点のはずだが、「この国が気に入らなければ出身国に帰れ」などと民主党新人女性下院議員四人にうそぶく始末である。

このような人種差別や排斥運動は歴史上何度もある。ヒットラーによるユダヤ人の排斥運動、戦前の日本における朝鮮人の抑圧支配などはその例である。激しい資本主義の競争から脱落し格差にあぐら下層の人々に「苦しいのはこいつらのせいだぞ」と指導者から指さされると、日頃より鬱屈した不平不満を抱く大衆はそのはけ口として熱狂的に興奮して攻撃しうつぶんを晴らそうとする。こうして政治指導者は大衆扇動者となり、身近にスケープゴートを提供し貧しい大衆の不満をそらそうとする。それを批判する者は反体制の「アカ」などと呼び、さらに民衆の怒りをかきたてる。ヒットラー、ムソソリーニなどがこのタイプである。こうして民衆の不満を転化して国をあげて、第二次大戦への道に突き進んでいった。

また、政治がそういう方向にいったん進み始めるとマスコミに対する言論統制も強まり、自由平等などの人権も抑圧されていく。そして指導者は軍隊をはじめ警察や司法の支配権をも握る。例えば治安維持法・ゲシュタポ・特高警察などがその例である。こうして民主主義は徐々に体力を失い死んでいく。これは気が付いた時には手遅れになっている。「ユデガエルの誕生」と同じ道を歩むことに他ならない。

確かに民主主義は「くだらない」「衆愚政治である」という主張もある。ならば、それに代わる立派



「自由は土佐の山間より出」
T社ラベル

な政治体制があるのか？おそらく、この問いに答えられる人はいないだろう。現代までの歴史の中で「民主主義」以上に国民にとつて「ベスト」ではなくても、「ベター」な体制があつただろうか？もし見つからないならば、この民主主義を守り育てていくことが今日の我々に課された最重要な課題ではないだろうか。

歴史は繰り返すと言われる。しかし、我々はいつか来た道へと後戻りをしてはいけない。ならば、具体的にどう行動していくべきか？国際社会への関与は？そのように考えると回答は困難である。

たとえば香港のようにデモをする、あるいは街頭演説やマスコミ等を通じ意見表明をするという方法もあるが、誰にでもそう簡単にできることではない。唯一すぐにできることは、参政権を行使することだ。すなわち「選挙に行く」ということが民主主義の基本である。今日の我が国の投票率は五十%ほどで、とりわけ若年層の投票率が低い。これは将来の日本の在り方に最も影響を受けるはずの若者が自分の意思を表明できる最良の機会を放棄していることである。国際関係等とはともかく、若者の将来の生活に非常に強く影響する就労・年金・人口・移民等々の問題が沢山あるはずだ。それでも、「投票したい政党

が無い」「投票したい人物がいらない」から行かないと言う。もちろんそれもわかるが、棄権しないで投票所に足を運ぶべきだ。投票の結果、代表が選ばれその中から時の指導者が決まり、内政や外交が行われる。すなわち一票の成果がそこに集約されるわけだ。

どうしても投票したい人や政党が無ければ「白票を入れればよい。開票の結果、白票が多い」ということは、その時の政権や政策及び政党にノーを突き付けることを意味する。積極的とは言えないまでも、立派な意思表明である。結果的に政府や政党の指導者に政策変更を催促することになる。こうした一人一人の基本的な権利行使が日本の将来への道を変えていくことになる。すべてはあなたの一票から始まる。それが民主主義を死なせない大前提である。

事務局だより

昭和四十七年化学工業科卒

事務局長 梅原正博

令和元年度総会及び理事会（平成二十八年度から三十年度まで）、令和元年度の事業計画、高知県立須崎総合高等学校（以下、総合高校）同窓会の方向性について報告

同窓会の皆様におかれましては、お元気でお過ごしのこととお喜び申し上げます。

さて、今回の事務局便りは本年九月二十一日に開

催されました本部総会の内容と、本部理事会での決定事項、総合高校同窓会の方向性についてご報告をさせていただきます。

令和元年度総会について

前回、平成二十八年度は須崎プリンスホテルでの開催でしたが、プリンスホテルが会場使用を取りやめたため、本年度は須崎市市民文化会館（須崎市新町二七―七十五）での開催となりました。

総会参加者は、来賓として梅原校長・正木副校長・中野敬頭にご列席をいただき、会員では県外支部より六名（関東・関西支部）、高知支部、幡多支部、窪川支部より十七名、須崎支部一〇四名の総勢一三〇名での開催となりました。

あいにく台風十七号の影響で曇り時々雨の天候でしたが、総会終了後は、引き続き懇親会を開催し、おいしい須崎の魚や料理、お酒を飲み交わし、大いに盛り上がりました、最後は全員が校歌を合唱し、三年後の再会を約束してお開きいたしました。

総会の内容につきましては以下のとおりです。
議題

- 一、平成二十八・二十九・三十年度事業報告
- 二、平成二十八・二十九・三十年度会計報告
- 三、監査報告
- 四、役員改選・新役員挨拶
- 五、令和元年度事業計画
- 六、令和元年度予算
- 七、その他 今後の同窓会活動に関する報告など

平成二十九年度から令和元年度までの理事会において以下の事項について決定いたしました。

○役員改選について

役員改選につきましては理事会において、平成二十八年度に中京支部長の沖良二氏（昭和三十九年機械科卒、理事）、の退任と、新たに中京支部長として高橋洋太郎氏（昭和四十三年化学工業科卒、理事）、の就任が承認されました。高知支部の秋山正元氏（昭和三十年電気通信科卒、理事）、の退任も併せて承認されました。また、令和元年度理事会において高知支部の竹村寿夫氏（昭和三十四年造船科卒、副会長）、森下春茂氏（昭和二十一年機械科一種卒、常任理事）、橋本栄彦氏（昭和三十一年化学工業科卒、理事）、大阪支部の野並允温氏（昭和三十年電気通信科卒、理事）、京滋支部長の濱川嗣朗氏（昭和三十一年機械科卒、理事）の退任について承認されました。

また、新たに須崎支部の明神高文氏（平成五年電気科卒）が理事として承認されました。

尚、改選後の役員名簿は本誌に掲載しておりますのでご確認ください。

○令和元年度の事業について

- | | |
|------------|---------------------------|
| 五月 十一日 | 本部理事会 |
| 二十五日 | 高知支部総会 |
| 九月 二十一日 | 同窓会総会開催
(須崎市市民文化会館) |
| 十一月 九日 | 関西支部総会(大阪・京滋支部) |
| 十六日 | 中京支部総会兼懇談会 |
| 十二月 中旬 | 同窓会誌「にしきうら」発送 |
| 令和二年 三月 一日 | 卒業証書授与式
(須崎総合高等学校第一期生) |

下旬 会計監査
となっております。

○令和元年度の予算について

令和元年度は三年に一度の総会と会報「にしきうら」の発行費用の約二〇万円を含め、一般会計で総額3,675,549円が理事会で承認されました。同窓会活動を長きにわたり存続していくため、支部配分金を約三十%減額しました。

また、令和2年度への特別会計累計積立金予算額は2,308万円となっています。

○同窓会規程集の変更

母校が総合高校に統合となったため、大きく規程集の変更を行いました。

○同窓会会則については

総則 総合高校に須崎工業高等学校（以下 須工）の同窓会事務局を置く

事業 総合高校の発展に関することに變更

役員 本会に若干名の副会長を置く、うち一名は本部事務局長に變更

学校長を相談役に推載することを追加

会計 入会金を削除する

支部配分金 支部に対する配分金額は理事会にて決定後、同年度六月までに還元するに變更

更

○慶弔見舞金贈与規定について

慶弔見舞金を支部総会祝金贈与規定に變更し、支部総会祝金のみ贈与規定とする。

○須工同窓会基金並びに益金運用規定について

現状の金融情勢に合わないため、そのすべてを廃止する

○「にしきうら」の発行について

同窓会会報「にしきうら」の紙面による発行については、本年度をもって廃止いたします。理由として、製本、郵送料などの費用がかさむため、前項でも述べたように、今後同窓会への収入が見込めないことから先行き資金不足となり存続が危ぶまれることから、ホームページでの掲載とするものです。したがって、次回（三年後）の「にしきうら」については同窓会ホームページの立ち上げにより、皆様にお知らせする予定となっています。

大阪支部と京滋支部それぞれの支部総会において、大阪支部と京滋支部の統合が協議され、平成三十一年四月一日付で両支部が統合となり、関西支部として発足いたしました。詳細は関西支部よりご報告のとおりです。

○総合高等学校同窓会について

学校より、総合高校同窓会の立ち上げについて、須工と須崎高校両校の若い同窓生の中から核となる人物を双方から出し合ってもらい、五年を目途に立ち上げをめざして行き、十年後を目途に本格的な活動につなげたい。事務局は学校に置くとの報告がありました。

については、須工同窓会からも三名から五名の間で人選を行い、新同窓会立ち上げの核になっていただくようお願いしているところでです。

また、総合高校のホームページも令和二年度に開設するよう準備中であり、開設したホームページに統合前の両校同窓会のホームページを開設してリンクする予定です。

尚、須工同窓会事務局は総合高等学校に置いて頂く事になりましたので併せてお知らせいたします。

以上

終身会費納入済者名

(平成28年9月1日～令和1年8月末まで納入いただいた方々)

ご協力に感謝とお礼を申し上げます。

化学工業科 小野 科 則 池田 科 寛 弘森 科 一 造 昭 隆 山崎 科 基 山崎 科 啓 山崎 科 作 山崎 科 英	<昭和44年> 電 氣 山 博 <昭和45年> 電 氣 泉 人 和 平 勝 陽 <昭和46年> 造 船 本 科 満 俊 <昭和47年> 電 氣 山 科 正 <昭和48年>	岩崎 安 宏 造 船 科 登 賀 梅垣 科 拓 幸 機 械 田 井 成 璋 松 崎 光 科 信 化学工業科 岩崎 森 科 良 電 西 森 科 良 <昭和42年> 機 械 池	<昭和34年> 造 船 科 芳 夫 <昭和35年> 電 氣 通 信 科 雄 今 橋 滿 雄 <昭和37年> 機 械 市 川 芳 享 <昭和39年> 化学工業科 竹 林 宏 <昭和40年> 機 械 科	<昭和21年> 機 械 津 和 昭 島 昭 忠 機 西 森 科 善 徳 造 藤 昭 和 29 年 科 次 郎 機 械 平 博 <昭和31年> 機 械 中 昭 和 31 年 科 義 雄 機 械 岡 田
--	--	---	--	---

<志> 海樹清佳矢仁生也飛宏斗希伶真疏紀貫輔史成介希郎翔昂大史樹里龍樹 大弥嶺河大正登人輝頼昌央信己郷也人守暉翔 志博誠虎
<年科> 那晃大託聖直尚勇智悠康吾拓武隆朋將聖大京和太 航雄乃 科 健聖 亮昌 雄健光 生黎海卓真裕隼 智 科 仁隆 正
<昭福平> 和氣井成械川藤岡上村原澤廣廣島元井脇部川田森田浦林田田岡神並本中本本田船川川藤嶽本本野倉本下林岡村井田野 情田川川柳
<電機機> 伊片川川木國國國下下田谷田寺西西浜日日福藤松明安柳山山山山吉 市市伊大岡岡小鎌岸木小笹寺土弘藤水森矢未氣池市市一

梨矢已奈也光友梧真蓮希輝星獸史樹杜太典沙麻步太ル 菜樹祥奈功々子奈夏葉沙喜華弥也伊希偉奈幸咲希月蓮か > 弘我輝人司司市樹海希
明星卓優淳豊喜獎一 樹 緋 雅 倫仁史千涼一隆サ 田一科里隆 壽 音優若彩梨梨佐夢優智芽 雄里健美優睦 り年科真斗翔理聖健慎袖拓大
入崎杉倉木本野岡越橋平山山村田 口井谷岡崎光下バイ上田野岡村本崎崎岡田邊脇脇村森井田田浦岡光山丸口本成械川田原湖崎野 崎田
江大大鎌黒坂高谷中永中中西新沼橋福古正宮森和 ユザ井上植片川岸實島高竹田谷谷田近中前前松松森守安山山山平 市宇梅江大大岡岡岡
<機機>

登乃河斗也良伸成夢星帆希望晟太太弥太太己斗 悟希輔烈生稀也莉斗賀哉人蓮爽太光介司郎在樹央帆貴剛 蒼彦起武都人太太伶太絃助慎矢帆
空風航悠真 卓耀夕天雅佳 帝裕隆迅英晏陸 科 啓和悠 結遙凌涉明凌智祐 玲 涼武太可春真飛義 科 帆龍嘉步秀謙亮翔 翔麻隆憲唱結
岡田 部原平平森森田田木田本本川崎船川橋西代野岡岡名味本中村川村山本川岡上光脇野本情川原崎庭原田保元脇内瀬田本木田
片堅小境田中中西西濱藤細前三三山山山山 市今江奧小片片桑古杉竹竹田田中中西西濱正村森森矢吉氣市梅大大岡久下谷中野橋藤細前
造 電

海仁樹太羅希輝ル 子也香美穗玖璃碧理き乃来月香奈 > 人見凌岳貴樹臣雅琉輝郎登夢希己規大祐聞真吾大龍斗吾陽宏人將億記大也哉大吾
七 大新天冬尚サ 科 季玲京祐朱衷留 由ず理未美美優年 科 勇健 悠一竜大翔響太愛來祐見良悠丈多楓真 紀夕昇太將速右 浩奏翔幸悠將
野本本光崎浅山バイ橋測崎林本田上澤米谷村方岡山邊成械 木田山川原上橋田木林本岡岡田添河元賀野野内村吉脇 瀧島村森 口森本本田本
牧松松森山湯横ニザ今江岡岡岡堅川國田中中羽久本渡平 青池石市市井今植梅岡岡片片堅河北下多高高武竹竹谷辻長鍋西西沼濱東藤前松三
造 電

夢生朗太 貴京竜心龍人吾吾太紳石舜杜也太司弥 馬龍健結織蓮稀基友一乃宗衣司志斗宣念磨ル 也望菜蓮花奈來菜希帆由紗翔也央輝
大混卓良 雄右朱優 悠拳祥幹詠暉 勇童秀太愛科 和 由伊 志瑞啓 綾政由 龍海嘉理力サ科 隆 優 優樹美利和真真有 將伶大
光崎本城 上崎崎谷本田村 井久島本内神瀬本本部情報 原川脇子崎田橋口邊脇田川岡本崎上澤川田バイ木野田村田野岡味形本本野口崎下本
森山山結船 井岡尾刈坂竹田佃土中野福堀明柳山渡氣原川脇子崎田橋口邊脇田川岡本崎上澤川田バイ木野田村田野岡味形本本野口崎下本
造 電

平成28年度～30年度決算報告(会計)

平成28年度一般会計決算報告書

【収入】

項目	金額	備考
前年度繰越	168,414	
新入生入会	182,000	2,000 × 91名
定期預金利息	203,181	
普通預金利息	32	
雑収入	28,000	427㍻入金より
特別会計補助	4,000,000	
合計	4,581,627	

【支出】

項目	金額	備考
全額費	50,760	
事業費	1,810,000	
通信費	29,911	
事務費	56,728	
慶弔費	403,652	
旅費	500,000	
支那配分金	1,118,200	
雑費	20,000	
予備費	444,889	
合計	4,434,140	

平成29年度への繰越金額

収入 4,581,627 - 支出 4,434,140 = 繰越金額 147,487
繰越金額の内訳 高額通帳 31,793 現金 115,694

平成28年度特別会計決算報告書

【収入】

項目	金額	備考
前年度末累積積立額	29,480,000	
平成28年度納入額	1,545,000	15,000円×新卒103名
"	420,000	旧卒28名
合計	31,445,000	

【支出】

項目	金額	備考
一般会計へ補助	4,000,000	
合計	4,000,000	

平成29年度への累積積立額

収入 31,445,000 - 支出 4,000,000 = 27,445,000

監査報告

通帳及び証券類等により監査の結果、金額その他については相違なく
預金通帳・定期預金証券ともに確実に管理され適正に執行されています。

平成29年3月29日

監査 山本 孝志

山下 剛史

平成29年度一般会計決算報告書

【収入】

項目	金額	備考
前年度繰越	147,487	
定期預金利息	37,685	
普通預金利息	48	
雑収入	0	
特別会計補助	2,000,000	
合計	2,185,220	

【支出】

項目	金額	備考
会議費	58,780	
事業費	204,158	
通信費	6,544	
事務費	60,894	
旅平費	322,742	
旅費	436,340	
支部配分金	761,420	
雑費	10,597	
予備費	185,600	
合計	2,047,075	

平成30年度への繰越金額

収入 2,185,220 - 支出 2,047,075 = 繰越金額 138,145
繰越金額の内訳 高銀通帳 108,826 現金 29,319

平成29年度特別会計決算報告書

【収入】

項目	金額	備考
前年度末累積積立額	27,445,000	
平成29年度納入額	1,365,000	15,000円×新卒91名
合計	28,810,000	

【支出】

項目	金額	備考
一般会計へ補助	2,000,000	
合計	2,000,000	

平成30年度への累積積立額

収入 28,810,000 - 支出 2,000,000 = 積立額 26,810,000

監査報告

通帳及び証書類等により監査の結果、金額その他については相違なく
預金通帳・定期預金証書ともに確実に管理され適正に執行されています。

平成30年3月24日

監査 山本 孝志

山下 剛史

平成30年度一般会計決算報告書

【収入】

項目	金額	備考
前年度繰越	138,145	
定期預金利息	36,700	
普通預金利息	23	
雑収入	0	
特別会計補助	1,500,000	
合計	1,674,868	

平成30年度特別会計決算報告書

【収入】

項目	金額	備考
前年度未累積預立額	26,810,000	
平成30年度納入額	1,380,000	92名
"	45,000	平成29年度卒1名 旧卒2名
合計	28,235,000	

【支出】

項目	金額	備考
会議費	56,808	
事業費	212,142	
通信費	2,962	
事務費	59,345	
慶弔費	200,000	
旅費	180,440	
支部配分金	761,420	
雑費	6,222	
予備費	0	
合計	1,479,339	

【支出】

項目	金額	備考
一般会計へ補助	1,500,000	
合計	1,500,000	

平成31年度への累積預立額

収入 支出 預立額
28,235,000 - 1,500,000 = 26,735,000

監査報告

通帳及び証券類等により監査の結果、金額その他については相違なく
預金通帳・定期預金証書ともに確実に管理され適正に執行されています。

平成31年3月28日

監査 山本 孝志

山下 剛史

平成31年度への繰越金額

収入 1,674,868 - 支出 1,479,339 = 繰越金額 195,529

繰越金額の内訳 高銀通帳 151,009 現金 44,520

令和1年度一般会計予算書

【収入】

項目	金額	備	考
前年度繰越金	195,529		
定期預金利息	30,000		
普通預金利息	20		
雑収入	0		
特別会計補助	3,450,000		
合 計	3,675,549		

【支出】

項目	金額	備	考
会議費	80,000	理事会・その他	
事業費	90,000	卒業記念品印刷ターンス付き(01年ノミ)	
	32,724	新聞広告掲載(須崎総合高校)	
	60,000	規定集作成 300	
2,352,724	300,000	總會補助・高知支部ノス(代含む)	
	470,000	全誌作成費9000部	
	60,000	封筒9000部	
	40,000	宛先ノハカシ	
	1,300,000	会報送料	
通信費	80,000		
事務費	80,000		
旅費	120,000		
庶務費	300,000	理事会・支部総会等	
		関東 224名	29,120 円
		中京 166名	24,900 円
		関西 355名	53,250 円
		高知 912名	155,040 円
支部配分金	533,750	須崎 2405名	240,500 円
		稚川 159名	20,670 円
		樺多 79名	10,270 円
雑費	20,000		
予備費	109,075		
合 計	3,675,549		

令和1年度特別会計予算書

【収入】

項目	金額	備	考
前年度未収預立額	26,735,000		
令和01年度納入額	0		
合 計	26,735,000		

【支出】

項目	金額	備	考
一般会計へ補助	3,450,000		
預立記念式典補助	200,000	須崎総合高校開校記念式典	
合 計	3,650,000		

令和02年度へ累掛預立額

収入	支出	預立額
26,735,000	- 3,650,000	= 23,085,000 円

高知県立須崎工業高等学校

同窓会役員名簿

2019、5

役職	氏名	卒業年度	科別	備考
相談役	清家 寛	昭和18年	機械2種	
"	森岡 清	昭和26年	機 械	
"	梅原俊男			母校校長
顧問	岡林幸保	昭和28年	造 船	
"	山地健三	昭和39年	化学工業	
会 長	林 和夫	昭和41年	化学工業	
副会長	戸梶昭雄	昭和45年	電 気	
"	梅原正博	昭和47年	化学工業	事務局長
常任理事	西山庸一	昭和48年	造 船	
"	坂本定浩	昭和54年	機 械	須崎支部長
"	川上清英	平成元年	化学工業	
理事	増田 浩	昭和35年	造 船	関西支部長
"	堀内靖博	昭和36年	機 械	関東支部長
"	加納弘史	昭和40年	電気通信	高知支部長
"	高橋洋太郎	昭和43年	化学工業	中京支部長
"	宮本博行	昭和43年	機 械	幡多支部長
"	金子 誠	昭和43年	機 械	
"	中川次男	昭和44年	機 械	
"	西内一隆	昭和50年	機 械	窪川支部長
"	伊藤久文	昭和52年	電 気	
"	福原靖幸	昭和57年	電 気	
"	海地登志夫	平成元年	化学工業	
"	明神高文	平成5年	電 気	
"	高橋誠幸	平成6年	造 船	
監 査	山本孝志	昭和44年	電 気	
"	山下剛史	平成6年	電 気	
会 計	外部委託			

同窓会について

同窓会は会員相互の親和、母校の隆盛を図るを目的としており、その目的を達成するために次のような事業を行っています。

- 一、同窓会会報「にしきうら」の発行
- 二、母校の発展に関すること
- 三、会員の親和に関すること
- 四、その他目的達成に必要なこと

同窓会終身会費納入のお願い

同窓会の運営は、会則第七章会計、第二十条に基づいて、会員の皆様からの入会金、会費、寄付金を持つて充てていますが、その中でも卒業生からの終身会費が、主な財源となっています。事務局におきましては、納入いただきました終身会費を積み立て、その利息で、活動資金の大半を捻出しています。

この実情にご理解戴き昭和五十三年以降の卒業生は、卒業の時点でほとんど納めてくれますし、平成四年以降の卒業生は、卒業時全員納入いただけるはこびとなっています。

終身会費未納の皆様方には、「にしきうら」郵送封筒宛名右下に、納入の方は納済み、未納の方は未納と記入しております。同窓会活動を今後とも益々発展させるため、是非とも早い時期に**終身会費**を納入下さいますよう、ご協力お願い致します。

高知県立須崎工業高等学校同窓会会長

林 和夫

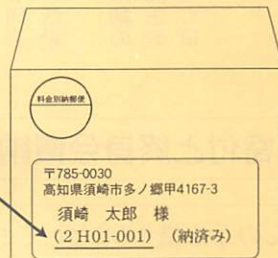
事務局長 梅原 正博

卒業年・科・コードNo.・住所・氏名・TELを
楷書でハッキリとご記入下さい。

(コードNo.は封筒表の宛名シール左下に記入しています)

(1Sは昭和卒業・2Hは平成卒業です)

終身会費未納の方は1万5千円を納入して下さい。



払い込み方法

同封の払込用紙にご記入の上、
最寄りの郵便局にて払込下さい。
(手数料は無料です)

現金を添えてお近くの郵便局の窓口よりご送金下さい。



02 徳島		払込取扱票		通常払込料金加入者負担	
口座番号 (左端にご記入ください)					
0	1	6	4	0	9
加入者名		金額		千 百 十 万 千 百 十 円	
高知県立須崎工業高等学校同窓会		金額			
* 卒業年 科		項目		金額	
* フリガナ		終身会費		15,000円	
* 氏名		会報寄付		円	
* 住所		合計		円	
TEL		受付局日附印			
勤務先					
勤務先住所					
TEL					

各欄の印刷欄は、払込入において記載してください。

切り取らば、郵便局に持出しください。

裏面の注意事項をお読み下さい。(郵政省)私製承認第 563号)

広報「どきんひび」の

配布終了とお願いについて



同窓生の皆様お元気にお過ごしのことと存じます。

昭和四十七（一九七二）年に第一号にしきうら“を発売してから三十八年となりますが、今回お送りします第三十四号をもって一旦配布の最終とさせて頂き、今後は時代の流れに沿って母校のホームページ上で閲覧ができるよう改善して参ります。

既にご存知とは思いますが、母校は今年四月に須崎高校と統合による須崎総合高校を同じ和佐田の地で開校致しました。

このため、これまでの須崎工業同窓生は今春の卒業生までとなり、来春からは総合高校同窓会が新たに発足致します。

この結果、当同窓会には新たな終身会費収入が無くなり経費を圧縮した運営が必須で、多額の製作費と郵送費の他、九千部にも及ぶ発送事務労力を要するにしきうら“の負担軽減が欠かせなくなつた次第です。

今後の同窓会につきましては、新総合高校同窓会の立ち上げに支援の手を差しのべる一方で、新会員はいなくなつてしましますが、しんじょう君“のように明るく活動して参ります。つきましては、誠に恐縮ではありますが、有意義な同窓会を継続するためには、それなりの活動資金が必要となります。

同封の振込用紙にて、終身会費未納の方には15000円を、温かいご厚志を頂ける方にはご寄付のお願いをさせて頂きたく何卒宜しくお願い致します。

ご寄付と終身会費納入にご協力を！

ご寄付と終身会費納入にご協力を！

お孫さんの手を借りるなどして！
母校ホームページを覗いてみませんか！
<http://www.kochinet.ed.jp/susakisogo-h>

【振り込み方法】

同封の振込用紙に卒年、科、氏名、住所、TELを楷書でしっかりお書きの上、郵貯にてお手続き下さい。
なお、この振込用紙が無くても、下記郵貯口座宛に記念の日など思いついた時いつでも振り込めますので温かなご厚志をどうぞ宜しくお願い致します。
口座番号記号01640-9-1357 高知県立須崎工業高校同窓会



須崎駅のしんじょう君



旧本館

旧南舎

新校舎

食堂棟アリーナ
(旧体育館)

北舎

中央館

南舎

体育館
(新体育館)

現在の高知県立須崎総合高等学校

(第3種郵便物認可)

高 栄ロ

新たな記録を残した造船部メンバー
(須崎市多ノ郷の須崎総合高)



スラローム、周回とも好タイム



周回レースに挑む造船部
(須崎総合高 舟楫部)

須崎総合高 ソーラー艇 V7 福岡の全国大会

【須崎】福岡県柳川とって、今春の統合後市で開かれた「柳川ソ 初レース。約3・1を3周すし、タイム短縮に貢

市で開かれた「柳川ソ 初レース。約3・1を3周すし、タイム短縮に貢
1ラポート大会で、パイを縫って50分を一般の部と合わせ15艇 目標に一步届かなかつ
須崎総合高校造船部が 進むスラロームは13艇が二番スタート。同校 たが、旧須崎工業高が持
学生の部2種目で優勝 が出場。操縦者の杉本 は一般の大会記録36分 学生の部の大会記録
した。旧須崎工業高時 栗斗さん(17)は3年11 00秒の更新に挑んだ。 を2分近く縮めた。
代と合わせて「スラロームは「体重移動でバラッ コース内に残る波の 来年、同部を引つ張
ームは7連覇(周回 スを崩したとしてつ 影響で速度が落ちる場 年の1人、黒原蒼さん
は6連覇の快挙だ。 も、26秒07でゴール。 面もあったが、電力を人の1人、黒原蒼さん
大会は3、4の両 昨年自ら出した大会記 使いきかないスタミナ (16)は「まだ乗ったこ
日、同市に残るお堀を 録24秒86には及ばな 勝負を心掛けた。船体 とがないけど、楽しそ
会場に、ソーラーパネ つたが、一般の部の1 付いた藻の除去やバウ」と操縦に意欲を見
ルとバッテリーを積ん 位よりも速い好タイム ット作業も素早くこな
だ艇で競った。同校に を出した。

約3・1を3周すし、タイム短縮に貢
る周回レース決勝は、 献。記録は37分37秒と
目標に一步届かなかつ
旧須崎工業高が持
学生の部の大会記録
を2分近く縮めた。
来年、同部を引つ張
影響で速度が落ちる場
年の1人、黒原蒼さん
面もあったが、電力を
使いきかないスタミナ
(16)は「まだ乗ったこ
勝負を心掛けた。船体
とがないけど、楽しそ
付いた藻の除去やバウ
と操縦に意欲を見
ット作業も素早くこな
せた。

(早川 健)

各種証明書の発行について

(母校事務室からの伝言)

校歌

- 一、須崎工業高校の
教の庭に身と心
新天新地光明の
輝くもとに勇ましく
日々きたひぬく健児団
- 二、自然の暗示わが教
大平洋の荒波は
わが人生の活動か
更に心の平穩は
波静かなる錦浦
- 三、工業報国理想とし
自主独立の精神を
抱き責務を怠らず
真理と正義重んじて
わが向上の道を逐ふ

証明書が必要なときは、所定の証明書交付申請書(用紙は事務室に備付)を校長宛提出しなければなりません。

申請書には必要事項記入のうえ押印し左記金額に相当する高知県収入証紙を貼付してください。遠隔地からの申込みは事務手続に相当の日数を要しますので早目に申込みをしてください。又県外には高知県収入証紙は販売していないので、現金、又は郵便小為替を同封してください。

なお返信用の封筒には切手の貼付、住所、氏名、郵便番号をお忘れなくご記入ください。

手数料は次のとおりです。

卒業証明書	一通につき四二〇円
成績証明書	一通につき四二〇円
単位修得証明書	一通につき四二〇円
送料	

送り先 〒七八五〇〇三〇

須崎市多ノ郷甲四一六七三

高知県立須崎総合高等学校事務室

電話(〇八八九) 四二一七八六

FAX(〇八八九) 四二一七七一五

証明書の件につき不明な点等がありましたらいつでも右記電話番号の証明係までお電話ください。

編集後記

同窓生の皆様におかれましては、益々ご健勝のことと推察します。このところ日本各地で震災や豪雨による甚大な被害が起きています。8年前の東日本大震災、これも完全に復興されてないが熊本地震、2018年は西日本豪雨災害、2019年は台風19号による未曾有の被害、日本国は暗い影を背負いどの方向に進んでいくのでしょうか。そのようななかで、明るい話題もあります。ラグビーのワールドカップでベスト8、来年は東京オリンピックの年です。日本選手の大活躍を祈念しております。

母校の歴史も時の流れで大きく変化しました。西札から和佐田へと立地場所が変わり、校名も変わりました。

残念ながら、製本での同窓会会報のお届けは最後となります。これも時代の流れでしょうか、35号からはホームページでの配信とさせていただきます。

最後に、ご寄稿下さいました会員の方々や各支部役員の皆様に厚くお礼申し上げますと共に、同窓生諸兄弟のご活躍とご健勝を心からお祈り致しております。

事務局編集者

会報「にしきうら」第三四号

令和一年十二月一日発行

高知県立須崎工業高等学校

発行所 同窓会事務局

有限会社笹岡印刷所

印刷所

高知県須崎市東古市町二番十六号
☎(〇八八九) 四二一〇二四四番